

全教材共通 映像振り返りワーク 教員向けサポート資料

「わかったこと・もっと知りたいこと・誰かに伝えたいこと・自分の中に残った問い」を、現地での探究につなげるために

ねらい

事前学習で得た知識や感情を一度整理し、現地で「何を見るか・何を聞くか・何を確かめるか」という自分自身の視点に変える。正解をそろえることなく、学びの出発点を一人ひとりにつくことを重視する。

進め方 個人作業 10 分間

① 4 つの問いを順番に読み、まず自分で考えます。 ② すべての欄に短くてもよいので書きます。 ③ 答えが出ない問いは「今の時点では分からない」「現地で確かめたい」と書いても構いません。

4 つの問いへの教員サポート

問い	生徒に考えさせたいこと	つまずいたときの声かけ・ヒント	教員が見るポイント
① わかったこと	数字・場所・出来事・証言などから、「新しく知ったこと」「理解が変わったこと」を具体化する。	「一番驚いた数字は？」「知らなかった場所や出来事は？」「前に思っていたことと変わった点は？」	「すごかった」だけで終わらず、具体的な事実や場面が書けているか。
② もっと知りたいと思ったこと	事前学習で生まれた疑問を、現地で確かめられる問いへ変える。	「なぜ？」「誰に聞けば分かる？」「どこへ行けば確かめられる？」を加える。 例：なぜこの場所に基地が集中したのか。	疑問が「検索して終わる問い」ではなく、現地の人・場所・資料とつながっているか。
③ 誰かに伝えたいこと	自分が大事だと感じた内容を選び、「誰に・何を・なぜ伝えるか」を整理する。	「家族に伝えるなら？」「同級生に一つだけ話すなら？」「その内容を選んだ理由は？」	事実だけでなく、「なぜ自分はそれを伝えたいのか」が言葉になっているか。
④ 自分の中に残った問い	答えがすぐに出ない違和感・迷い・葛藤を大切に、自分自身の問いとして残す。	「答えが分からなくてもよい」「モヤモヤしたことは？」「立場が変わると答えは変わる？」	無理に結論を出していないか。現地で考え続けられる問いになっているか。

教員の関わり方のポイント ・書けない生徒には「正しい答え」を与えず、具体的な場面を思い出させる。 ・共有では意見の優劣をつけず、「同じ資料でも見方が違う」ことを価値づける。 ・「なぜそう思った？」「どこからそう考えた？」と、根拠に戻す声かけを行う。	授業の最後に伝える一言(例) 「今日書いた 4 つの答えは完成形ではありません。現地で見たり、聞いたり、人と出会ったりすることで変わってよいものです。自分の問いを持って沖縄に行き、その問いがどう変わるかも確かめてみましょう。」
--	---

※ 回収する場合は、内容の正誤よりも「具体性」「根拠」「問いの深まり」を中心に確認する。

4 つの記入欄と教員の支援ポイント

① わかったこと 新しく知ったこと・理解が変わったことを、数字、場所、出来事、証言などを使って具体的に。	② もっと知りたいと思ったこと 事前学習で生まれた疑問を、現地で確かめたいこととして書く。
③ 誰かに伝えたいこと 学習内容から一つ選び、「誰に・何を・なぜ伝えたいか」を整理する。	④ 自分の中に残った問い すぐに答えが出ない違和感、迷い、疑問を、そのまま自分の問いとして残す。